

令和 3 年 5 月 31 日現在

機関番号：17102

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2016～2020

課題番号：16H06403

研究課題名（和文）神経グリア発達によるモチベーションの形成とその破綻・修復機構の解明

研究課題名（英文）Clarification of developmental dysfunctional modifying mechanisms about motivation will-dynamics via neuron-glia interaction

研究代表者

加藤 隆弘 (kato, takahiro)

九州大学・大学病院・講師

研究者番号：70546465

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 81,300,000円

研究成果の概要（和文）：6ヶ月以上外出や対人交流を避ける「社会的ひきこもり」や、従来型のうつ病とは異なる薬物治療反応性を示す「新型うつ/現代うつ」の病態を呈する若者の増加が社会問題となっている。本研究では、こうした病態を示す精神疾患患者における診断法を含む評価法を開発した。こうした評価法により、その生物学的基盤として炎症やグリアに関連する分子基盤を予備的に同定することに成功した。ひきこもり関連モデルマウスを開発し、その脳内神経グリア相関を解析することで、幾つかの病態基盤を萌芽的に同定した。本研究での知見を基にして、こうした病態を呈する患者の新たな治療法開発に活かしてゆきたい。

研究成果の学術的意義や社会的意義

発達障害などの発達素因に起因する病態の複雑化が報告されている。こうした症候群の背景に「モチベーション（やる気）」の形成不全、減退およびそれらの障害が示唆されるものの十分には解明されておらず、実証的な研究が必要な状況にあった。

研究成果の概要（英文）：The increase in the number of young people with social withdrawal (hikikomori), who avoid going out and interacting with others for more than 6 months, and modern-type depression, which shows a different response to medication than traditional depression, has become a social problem. In this study, we developed assessment methods including diagnostic criteria for patients with these mental conditions. We have succeeded in preliminary identification of inflammation- and glial-related molecular basis as the biological basis of these disorders. We also developed a mouse model of hikikomori and identified several pathological bases by analyzing the neuron-glia interactions in the brain. Based on the findings of this study, we would like to develop new treatment methods for patients with hikikomori and modern-type depression.

研究分野：精神医学

キーワード：社会的ひきこもり 現代うつ モデルマウス ミクログリア オリゴデンロドサイト

1. 研究開始当初の背景

(1) 「社会的ひきこもり」や「新型うつ/現代うつ」に関する実証的研究の必要性

6ヶ月以上に渡り外出や対人交流を避ける「社会的ひきこもり」や、従来型の抑うつとは異なる薬物治療反応性を示す「新型うつ/現代うつ」の病態を呈する若者の増加が社会問題となっており、発達障害などの発達素因に起因する病態の複雑化が報告されている。こうした症候群の背景に「モチベーション(やる気)」の形成不全、減退およびそれらの障害が示唆されるものの十分には解明されておらず、実証的な研究が必要な状況にあった。

(2) 国内外の研究動向と、応募者のこれまでの研究成果および着想に至った経緯

グリア細胞と精神機能や精神発達の関連性の解明の必要性

近年の脳画像研究により、統合失調症、大うつ病に加えて広範性発達障害など様々な精神疾患患者でミクログリア過剰活性化が報告されている(JAMA Psychiatry 2013)。

研究代表者(加藤)は精神医学者・グリア研究者を中心としたチームで研究を進めており、「社会的ひきこもり」や「新型うつ/現代うつ」急増の背景に養育環境の劇的な変化やネット社会化による直接的対人交流の減少が影響する可能性を提唱し(Lancet 2011)、こうした症候群の評価ツールを独自で開発してきた(Am J Psychiatry; PLoS ONE 2015 他)。またミクログリア活性化抑制作用のある抗生物質ミノサイクリンを用いた社会学実験により、ミクログリアの活性化制御が意欲や欲動を含む高次精神機能を変容させる可能性を報告した他(Psychopharmacology 2012; PLoS ONE 2012; Sci Rep 2013 他)、大学生対象の予備的研究により、ひきこもり傾向や意欲低下のある若者で血中炎症マーカー異常を見出してきた。

こうした現状を踏まえ、研究代表者(加藤)と研究分担者(牧之段)はグリア細胞と精神機能や精神発達の関連性の解明に取り組んできた。

2. 研究の目的

本研究では、「発達期の様々なストレス・環境因子がミクログリア過剰賦活やオリゴデンドロサイト形成傷害等を誘引し、結果的に「社会的ひきこもり」や「新型うつ/現代うつ」などのモチベーション関連障害を導く」という仮説を提唱し、マウスとヒトでの橋渡し研究(双方向研究)として解明することとした。

3. 研究の方法

【臨床研究】広範性発達障害患者・気分障害患者(新型うつ/現代うつ患者含)・社会的ひきこもり者から、説明と同意の元で、血液を含む多軸的なデータを取得し、モチベーションやその障害に起因するファクターを見出す。[評価項目] 生理学的データおよび心理社会的データを取得し、一部の者からは直接誘導ミクログリア様細胞(iMG細胞:独自で開発し国際特許出願済)を作製し、これらの特性評価を行い、相関解析により、モチベーションとその障害に関連する生物学的因子を同定する。ひきこもりや新型うつ/現代うつを簡便に評価できるスケールを開発する。

【マウス実験】自閉症関連マウス、及び、独自に開発したひきこもり関連モデルマウスを用いて、発達期マウスに社会的孤立等のストレスを負荷し、経時的に神経グリア(特にミクログリア・オリゴデンドロサイト)の脳形態機能解析・モチベーションや社会性評価を含む行動解析・脳波解析等を行い、モチベーションとその障害に寄与する脳内機構を解明する。

4. 研究成果

(1)【臨床研究】

研究代表者のラボ(九州大学病院気分障害ひきこもり外来・九大精神科分子細胞研究室)では、ひきこもりや現代うつ/新型うつの精神医学診断・心理検査・血液を含む多軸的なデータを取得可能な専門外来を大学病院内に構築しており、200名を超える臨床データの集積に成功した。

気分障害患者や自閉スペクトラム症患者において、ヒト末梢血を用いた解析により炎症やグリアがこうした病態に寄与する可能性を明らかにした。躁うつ病患者の中で特に気分変動が激しいラピッドサイクラー型の患者から、躁相(やる気が亢進している時)とうつ層(やる気が減退

している時)にそれぞれ血液由来マイクログリア様(iMG)細胞を作製し、遺伝子発現を解析したところ、うつ相においてM2マーカーCD206の発現亢進を見出した(Ohgidani et al. Front Immunol 2017: 図1)。なお、抑うつ患者の血液メタボローム解析では、幾つかの代謝物が「アンヘドニア(やる気低下)」に関連することを見出した(Setoyama et al. PLoS ONE 2016)。

ひきこもり者の血液データの予備的解析により、男性ひきこもり者では血中尿酸値低下、女性ひきこもり者ではHDLコレステロール値低下を見出した。さらにひきこもり状況にない若者でも回避的性格が信頼行動(リスクを冒す行動)や信頼感の低下に影響を与え、その制御に尿酸・HDLコレステロール・FDP・高感度CRPなど炎症関連物質が関与することを見出した(Hayakawa, Kato et al. Sci Rep 2018)。いわゆる「新型うつ/現代うつ」患者を含む抑うつを訴える患者において、幾つかの血中代謝物が関連することを見出した(Setoyama et al. PLoS ONE 2016; Kuwano et al. J Affect Disord 2018)。

従来、「ひきこもり」とは、6ヶ月以上にわたり就労・学業など社会参加を回避し自宅に留まっている現象のことを一般的に指していたが、精神疾患との併存や回避状態を評価することは容易ではなく、海外でもひきこもり様の症例が報告され、国際的に通用する「ひきこもり」の評価基準が求められていた。そこで「病的ひきこもり」の新しい国際評価基準を開発した。今回の新しい定義では、物理的撤退を必須項目とし、それ以外を補足項目とし、回避や併存疾患の有無を問わないとすることで、これまでの混乱の解決を図った(Kato et al. World Psychiatry 2020)。従来の定義との相違点として、6ヶ月未満の回避状況に関する記載や外出頻度、直接的・間接的対人交流の有無、並存症の有無に基づいた重症度・下位分類の評価が明記されたことで、より詳細な状態評価が可能となった。これにより個々人の状態に適した支援を提供しやすくなることが期待される。併せて臨床場面での早期介入に結びつけるために、ひきこもり傾向や「新型うつ/現代うつ」気質を簡便に評価できる自記式質問票として「The 25-item Hikikomori Questionnaire」,「樽味の「新型/現代うつ」病前性格評価尺度22項目版(TACS-22)」を開発した(Teo et al. PCN 2018: 表1, Kato et al. PCN 2019: 表2)。

新たに開発した病的ひきこもりの新しい国際評価基準を用いて、外来患者から病的なひきこもりの診断評価を行うと共に、そのバイオマーカーを含む多軸的データ取得を行った。これまで蓄積したデータを元に、うつ病患者の中で特にひきこもり状態にある方の心理社会的特徴を同定した(Teo et al. J Affect Disord 2020)。また臨床患者の中でもひきこもり者は自閉スペクトラム症傾向が高い者が多いことを見出した(Katsuki et al. PCN 2020: 図2)。

(2)【マウス実験】

分担研究機関の奈良医大では、モデル動物実験として、ひきこもりに関連する表現型を評価できるモデル齧歯類の開発を行い、暫定的なモデルを作成した。グリアを中心とした解析に着手し、マイクログリアに関する脳内基盤を萌芽的に見出した(未公開データのため具体的な分子等は記載せず)。

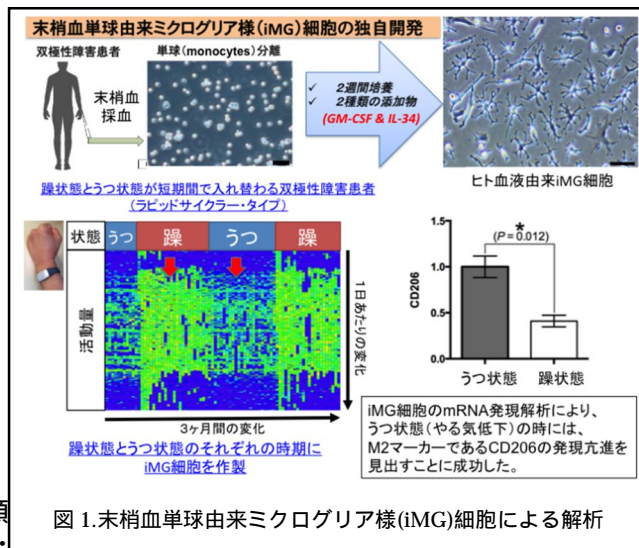


図1.末梢血単球由来マイクログリア様(iMG)細胞による解析

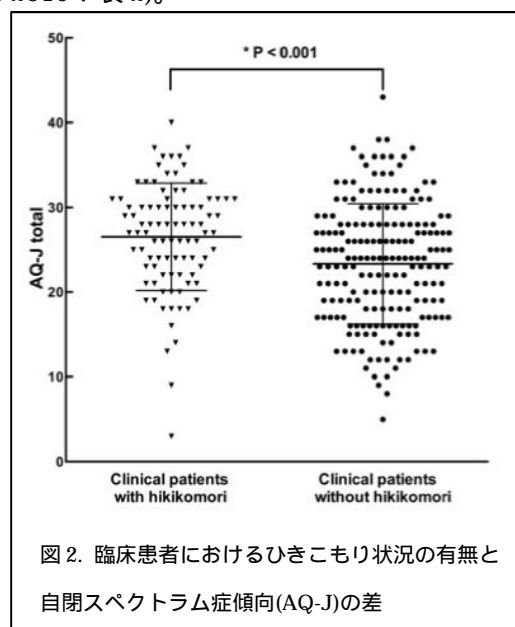


図2. 臨床患者におけるひきこもり状況の有無と自閉スペクトラム症傾向(AQ-J)の差

表 1. The 25-item Hikikomori Questionnaire (HQ-25): 日本語版

最近6ヶ月間で、以下の文章はどのくらいあなたにあてはまりますか。
最も適切な番号をひとつ選び、○をつけてください。

		あてはまりません	ほとんどあてはまりません	どちらでもない	多少あてはまる	あてはまる
1	人と距離をとる。	0	1	2	3	4
2	一日中ほとんど自宅で過ごす。	0	1	2	3	4
3	大切な事柄について話し合える人が本当に誰もいない。	0	1	2	3	4
4 [†]	知らない人に会うのが大好きだ。	0	1	2	3	4
5	自分の部屋に閉じこもる。	0	1	2	3	4
6	人がうっとうしい。	0	1	2	3	4
7 [†]	自分の生活において自分を理解してくれようとする人たちがいる。	0	1	2	3	4
8	人と一緒にいるのは居心地が悪い。	0	1	2	3	4
9	一日中ほとんど一人で過ごす。	0	1	2	3	4
10 [†]	何人かの人に個人的な考えを打ち明けることができる。	0	1	2	3	4
11	人から見られるのが嫌だ。	0	1	2	3	4
12	人と直接会うことはほとんどない。	0	1	2	3	4
13	集団に入るのは苦手だ。	0	1	2	3	4
14	大切な問題について話し合える人があまりいない。	0	1	2	3	4
15 [†]	人との交流は楽しい。	0	1	2	3	4
16	社会のルールや価値観に沿って生きていない。	0	1	2	3	4
17	自分の人生にとって大切な人は本当に誰もいない。	0	1	2	3	4
18	人と話すことを避ける。	0	1	2	3	4
19	人と連絡をとることはあまりない(話す、書く等)。	0	1	2	3	4
20	誰かと一緒にいるよりも、一人でいる方がずっと好きだ。	0	1	2	3	4
21 [†]	自分の抱える問題に関して、安心して相談できる人がいる。	0	1	2	3	4
22 [†]	一人で時間を過ごすことはめったにない。	0	1	2	3	4
23	人づきあいは楽しくない。	0	1	2	3	4
24	人と交流することはほとんどない。	0	1	2	3	4
25 [†]	一人でいるよりも、誰かと一緒にいる方がずっと好きだ。	0	1	2	3	4

合計 0 – 100 点

† 逆転項目

表 2. 樽味の「新型 / 現代うつ」病前性格評価尺度 22 項目版 (TACS-22): 日本語版

以下の文章は普段のあなたにどのくらいあてはまりますか？

最も適切な番号をひとつ選び、○をつけてください。あまり深く考え込まずに答えてください。

	あてはまりません	あまりあてはまりません	どちらでもない	少しあてはまる	あてはまる
1 周囲から休むように言ってもらいたい	0	1	2	3	4
2 自分は傷つきやすい人間だ	0	1	2	3	4
3 仕事や勉強より、好きなことだけをして過ごしたい	0	1	2	3	4
4# 人生は何とかなると思う	0	1	2	3	4
5 社会人や学生という枠にはめて欲しくない	0	1	2	3	4
6 社会がなくなってしまう方がいいと思う	0	1	2	3	4
7 周りの人に自分の個性を尊重してほしい	0	1	2	3	4
8 何事も完璧でないと気が済まない	0	1	2	3	4
9# 人生には苦勞が必要だ	0	1	2	3	4
10 誰も自分を理解してくれない	0	1	2	3	4
11 周囲に合わせるよりも、マイペースに生きていきたい	0	1	2	3	4
12 自分は価値のない人間だ	0	1	2	3	4
13 調子が悪い時に休むのは当然だ	0	1	2	3	4
14 周囲の人のサポートが足りない	0	1	2	3	4
15 人に頼りたい	0	1	2	3	4
16 周囲の人から気をつかわれるとつらい	0	1	2	3	4
17 したくないことには手を抜く	0	1	2	3	4
18 身に覚えのないことで非難される	0	1	2	3	4
19 あまり苦勞せずに生きていきたい	0	1	2	3	4
20 つらい気持ちが表情や動きに出やすい	0	1	2	3	4
21 世の中には無駄な決まりが多い	0	1	2	3	4
22 今の自分の状態は周りの人の責任だ	0	1	2	3	4
合計 0 – 88 点					
# 逆転項目					

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計67件（うち査読付論文 38件 / うち国際共著 18件 / うちオープンアクセス 21件）

1. 著者名 Kato Takahiro A., Shinfuku Naotaka, Tateno Masaru	4. 巻 33
2. 論文標題 Internet society, internet addiction, and pathological social withdrawal	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Current Opinion in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 264 ~ 270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/YCO.0000000000000601	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tan Marcus P. J., Lee William, Kato Takahiro A.	4. 巻 18
2. 論文標題 International experience of hikikomori (prolonged social withdrawal) and its relevance to psychiatric research	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BJPsych International	6. 最初と最後の頁 34 ~ 37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1192/bji.2020.20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Kaneko Sachie, Kato Takahiro A., Makinodan Manabu, Komori Takashi, Ishida Rio, Kishimoto Naoko, Takahashi Masato, Yasuda Yuka, Hashimoto Ryota, Iwasaka Hidemi, Tanaka Ayumi, Uchida Yukiko, Kanba Shigenobu, Kishimoto Toshifumi	4. 巻 13
2. 論文標題 The Self Construal Scale: A Potential Tool for Predicting Subjective Well Being of Individuals With Autism Spectrum Disorder	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Autism Research	6. 最初と最後の頁 947 ~ 958
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/aur.2242	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Teo Alan R., Nelson Sarah, Strange Wynn, Kubo Hiroaki, Katsuki Ryoko, Kurahara Keita, Kanba Shigenobu, Kato Takahiro A.	4. 巻 274
2. 論文標題 Social withdrawal in major depressive disorder: a case-control study of hikikomori in japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 1142 ~ 1146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2020.06.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kato Takahiro A., Sartorius Norman, Shinfuku Naotaka	4. 巻 74
2. 論文標題 Forced social isolation due to COVID 19 and consequent mental health problems: Lessons from hikikomori	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 506 ~ 507
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13112	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sagata Noriaki, Kano Shin ichi, Ohgidani Masahiro, Inamine Shogo, Sakai Yasunari, Kato Hiroki, Masuda Keiji, Nakahara Takeshi, Nakahara Kido Makiko, Ohga Shouichi, Furue Masutaka, Sawa Akira, Kanba Shigenobu, Kato Takahiro A.	4. 巻 40
2. 論文標題 Forskolin rapidly enhances neuron like morphological change of directly induced neuronal cells from neurofibromatosis type 1 patients	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 396 ~ 400
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12144	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Katsuki Ryoko, Tateno Masaru, Kubo Hiroaki, Kurahara Keita, Hayakawa Kohei, Kuwano Nobuki, Kanba Shigenobu, Kato Takahiro A.	4. 巻 74
2. 論文標題 Autism spectrum conditions in hikikomori : A pilot case?control study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 652 ~ 658
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.13154	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Setoyama Daiki, Yoshino Atsuo, Takamura Masahiro, Okada Go, Iwata Masaaki, Tsunetomi Kyohei, Ohgidani Masahiro, Kuwano Nobuki, Yoshimoto Junichiro, Okamoto Yasumasa, Yamawaki Shigeto, Kanba Shigenobu, Kang Dongchon, Kato Takahiro A.	4. 巻 279
2. 論文標題 Personality classification enhances blood metabolome analysis and biotyping for major depressive disorders: two-species investigation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 20 ~ 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2020.09.118	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kubo Hiroaki, Setoyama Daiki, Watabe Motoki, Ohgidani Masahiro, Hayakawa Kohei, Kuwano Nobuki, Sato-Kasai Mina, Katsuki Ryoko, Kanba Shigenobu, Kang Dongchon, Kato Takahiro A.	4. 巻 11
2. 論文標題 Plasma acetylcholine and nicotinic acid are correlated with focused preference for photographed females in depressed males: an economic game study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 2199-2199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-75115-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加藤隆弘	4. 巻 31
2. 論文標題 精神疾患におけるミクログリア活性化制御をターゲットとした創薬への期待	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 700-710
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘, 扇谷昌宏, 神庭重信	4. 巻 78
2. 論文標題 精神疾患ミクログリア仮説からみた双極性障害とその橋渡し研究.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本臨牀	6. 最初と最後の頁 1654-1661
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘	4. 巻 22
2. 論文標題 新しい「社会的ひきこもり」の評価法：コロナ禍での地域における活用の提案	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 48-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川宏平, 加藤隆弘	4. 巻 20
2. 論文標題 ひきこもりの生物学的基盤 ひきこもりにバイオマーカーは存在するのか?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 683-691
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸山大樹, 加藤隆弘	4. 巻 37
2. 論文標題 診断バイオマーカーうつ病の血液バイオマーカー開発の試み-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 592-598
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Enomoto Shingo, Kato Takahiro A.	4. 巻 142
2. 論文標題 Involvement of microglia in disturbed fear memory regulation: Possible microglial contribution to the pathophysiology of posttraumatic stress disorder	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Neurochemistry International	6. 最初と最後の頁 104921 ~ 104921
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.neuint.2020.104921	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tateno Masaru, Teo Alan R., Ukai Wataru, Kanazawa Junichiro, Katsuki Ryoko, Kubo Hiroaki, Kato Takahiro A.	4. 巻 10
2. 論文標題 Internet Addiction, Smartphone Addiction, and Hikikomori Trait in Japanese Young Adult: Social Isolation and Social Network	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 455-455
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2019.00455	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hayakawa Eisuke, Ohgidani Masahiro, Fujimura Yoshinori, Kanba Shigenobu, Miura Daisuke, Kato Takahiro A.	4. 巻 210
2. 論文標題 Cuprizone-treated mice, a possible model of schizophrenia, highlighting the simultaneous abnormalities of GABA, serine and glycine in hippocampus	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Schizophrenia Research	6. 最初と最後の頁 326 ~ 328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.schres.2019.06.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato Takahiro A., Katsuki Ryoko, Kubo Hiroaki, Shimokawa Norihiro, Sato Kasai Mina, Hayakawa Kohei, Kuwano Nobuki, Umene Nakano Wakako, Tateno Masaru, Setoyama Daiki, Kang Dongchon, Watabe Motoki, Sakamoto Shinji, Teo Alan R., Kanba Shigenobu	4. 巻 73 (8)
2. 論文標題 Development and validation of the 22 item Tarumi's Modern Type Depression Trait Scale: Avoidance of Social Roles, Complaint, and Low Self Esteem (TACS 22)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 448-457
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12842	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Katsuki Ryoko, Inoue Ayako, Indias S, Kurahara Keita, Kuwano Nobuki, Funatsu Fumika, Kubo Hiroaki, Kanba Shigenobu, Kato Takahiro A.	4. 巻 10
2. 論文標題 Clarifying Deeper Psychological Characteristics of Hikikomori Using the Rorschach Comprehensive System: A Pilot Case Control Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 412-412
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2019.00412	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Wong John Chee Meng, Wan Michelle Jing Si, Kroneman Leoniek, Kato Takahiro A., Lo T. Wing, Wong Paul Wai-Ching, Chan Gloria Hongyee	4. 巻 10
2. 論文標題 Hikikomori Phenomenon in East Asia: Regional Perspectives, Challenges, and Opportunities for Social Health Agencies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 512-512
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsy.2019.00512	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Pozza Andrea, Coluccia Anna, Kato Takahiro, Gaetani Marco, Ferretti Fabio	4. 巻 9
2. 論文標題 The 'Hikikomori' syndrome: worldwide prevalence and co-occurring major psychiatric disorders: a systematic review and meta-analysis protocol	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e025213 ~ e025213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-025213	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kaneko Sachie, Kato Takahiro A., Makinodan Manabu, Komori Takashi, Ishida Rio, Kishimoto Naoko, Takahashi Masato, Yasuda Yuka, Hashimoto Ryota, Iwasaka Hidemi, Tanaka Ayumi, Uchida Yukiko, Kanba Shigenobu, Kishimoto Toshifumi	4. 巻 13
2. 論文標題 The Self Construal Scale: A Potential Tool for Predicting Subjective Well Being of Individuals With Autism Spectrum Disorder	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Autism Research	6. 最初と最後の頁 947 ~ 958
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/aur.2242	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kubo Hiroaki, Urata Hiromi, Sakai Motohiro, Nonaka Shunsuke, Saito Kazuhiko, Tateno Masaru, Kobara Keiji, Hashimoto Naoki, Fujisawa Daisuke, Suzuki Yuriko, Otsuka Kotaro, Kamimae Hiroho, Muto Yuya, Usami Takashi, Honda Yoko, Kishimoto Junji, Kuroki Toshihide, Kanba Shigenobu, Kato Takahiro A.	4. 巻 6
2. 論文標題 Development of 5-day hikikomori intervention program for family members: A single-arm pilot trial	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Heliyon	6. 最初と最後の頁 e03011 ~ e03011
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.heliyon.2019.e03011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato Takahiro A., Kanba Shigenobu, Teo Alan R.	4. 巻 19
2. 論文標題 Defining pathological social withdrawal: proposed diagnostic criteria for hikikomori	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 World Psychiatry	6. 最初と最後の頁 116 ~ 117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/wps.20705	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 久保浩明, 加藤隆弘	4. 巻 34(4)
2. 論文標題 ひきこもりの家族への相談・支援	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 423-428
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato Takahiro A., Kanba Shigenobu, Teo Alan R.	4. 巻 73(8)
2. 論文標題 Hikikomori: Multidimensional understanding, assessment and future international perspectives	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 427-440
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12895	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加藤隆弘, 瀬戸山大樹, 桑野信貴, 康東天, 神庭重信	4. 巻 34 (5)
2. 論文標題 血液メタボローム解析で抑うつ重症度・自殺念慮を客観的に評価する試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 515-523
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘	4. 巻 19(3)
2. 論文標題 『私の研究紹介』心のミクログリア仮説説明を志して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 分子精神医学	6. 最初と最後の頁 159-160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘	4. 巻 34(9)
2. 論文標題 気分障害のミクログリア仮説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 1037-1044
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘	4. 巻 208
2. 論文標題 【連載「精神分析と脳科学が出会ったら？」第1回】脳とところが交差する悩ましい世界への旅	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 8-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘	4. 巻 35(4)
2. 論文標題 働くミクログリアとその破綻としての精神疾患	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 341-349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘, 早川 宏平	4. 巻 5(3)
2. 論文標題 ひきこもりの多軸的評価とバイオマーカー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神科臨床	6. 最初と最後の頁 78-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘	4. 巻 110(4)
2. 論文標題 うつ病・自殺のミクログリア仮説と解明のための橋渡し研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福岡医学雑誌	6. 最初と最後の頁 171-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘	4. 巻 209
2. 論文標題 連載「精神分析と脳科学が出会ったら？」第2回】現代の多層化・複雑化した脳科学研究と精神分析の居場所	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 128-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤 隆弘, 香月 亮子	4. 巻 49(2)
2. 論文標題 【精神医学における平成時代の変化と新時代への展望】現代社会における抑うつ症候群としての新型/現代型うつ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 219-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuwano N, Kato TA*, Setoyama D, Sato-Kasai M, Shimokawa N, Hayakawa K, Ohgidani M, Sagata N, Kubo H, Kishimoto J, Kang D, Kanba S	4. 巻 231
2. 論文標題 Tryptophan-kynurenine and lipid related metabolites as blood biomarkers for first-episode drug-naïve patients with major depressive disorder: an exploratory pilot case-control study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 74-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.01.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato TA*, Kanba S	4. 巻 175(5)
2. 論文標題 Is a Socio-Cultural Analysis of Depressive Disorders a Matter of Concern? Response to Kaiya	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 American Journal of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 483-484
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1176/appi.ajp.2018.17121404r	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teo AR*, Chen JI, Kubo H, Katsuki R, Sato-Kasai M, Shimokawa N, Hayakawa K, Umene-Nakano W, Aikens, JE, Kanba S, Kato TA	4. 巻 72(10)
2. 論文標題 Development and validation of the 25-item Hikikomori Questionnaire (HQ-25)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 780-788
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12691	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kuвано N, Kato TA*, Mitsuhashi M, Sato-Kasai M, Shimokawa N, Hayakawa K, Ohgidani M, Sagata N, Kubo H, Sakurai T, Kanba S	4. 巻 240
2. 論文標題 Neuron-related blood inflammatory markers as an objective evaluation tool for major depressive disorder: An exploratory pilot case-control study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 88-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.07.040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kubo H, Urata H, Katsuki R, Hirashima M, Ueno S, Suzuki Y, Fujisawa D, Hashimoto N, Kobara K, Cho T, Mitsui T, Kanba S, Otsuka K, Kato TA*	4. 巻 13(12)
2. 論文標題 Development of MHFA-based 2-h educational program for early intervention in depression among office workers: A single-arm pilot trial	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0208114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0208114	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki H, Ohgidani M, Kuwano N, Chrétien F, Lorin de la Grandmaison G, Onaya M, Tominaga I, Setoyama D, Kang D, Mimura M, Kanba S, Kato TA*	4. 巻 13
2. 論文標題 Suicide and Microglia: Recent Findings and Future Perspectives Based on Human Studies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Cellular Neuroscience	6. 最初と最後の頁 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fncel.2019.00031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kato Takahiro A., Katsuki Ryoko, Kubo Hiroaki, Shimokawa Norihiro, Sato Kasai Mina, Hayakawa Kohei, Kuwano Nobuki, Umene Nakano Wakako, Tateno Masaru, Setoyama Daiki, Kang Dongchon, Watabe Motoki, Sakamoto Shinji, Teo Alan R., Kanba Shigenobu	4. 巻 73
2. 論文標題 Development and validation of the 22 item Tarumi's Modern Type Depression Trait Scale: Avoidance of Social Roles, Complaint, and Low Self Esteem (TACS 22)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences	6. 最初と最後の頁 448-457
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pcn.12842	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加藤隆弘	4. 巻 49(3)
2. 論文標題 精神分析と脳科学から「死の欲動」を考える～人はなぜ戦争そして自殺をするのか～(時評)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心と社会 173	6. 最初と最後の頁 50-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 扇谷昌宏, 細井昌子, 加藤隆弘	4. 巻 76(11)
2. 論文標題 線維筋痛症のトランスレーショナル研究: ミクログリア過剰活性化とTNF-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本臨牀	6. 最初と最後の頁 1937-1948
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細井 昌子, 扇谷 昌宏, 加藤 隆弘	4. 巻 35(6)
2. 論文標題 種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割の解明とそれによる患者ケアの向上 線維筋痛症と中枢ミクログリア異常仮説 誘導ミクログリア細胞 (iMG) による評価	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 神経治療学	6. 最初と最後の頁 S168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤 隆弘, 扇谷 昌宏, 桑野 信貴, 瀬戸山 大樹, 康 東天, 神庭, 重信	4. 巻 29(4)
2. 論文標題 【うつ病における炎症・酸化ストレスの役割と創薬への発展性】 ミクログリア仮説に鑑みた気分障害の血液バイオマーカー研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本生物学的精神医学会誌	6. 最初と最後の頁 182-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤 隆弘	4. 巻 203
2. 論文標題 服薬と処方心理 くすりを飲む心理・出す心理 転移-逆転移を扱う 精神分析の立場から処方行動を考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 こころの科学 No203	6. 最初と最後の頁 33-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川 宏平 加藤 隆弘	4. 巻 34(2)
2. 論文標題 【ひきこもりの研究】 ひきこもりのバイオマーカー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 164-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haraguchi Yoshinori, Mizoguchi Yoshito, Ohgidani Masahiro, Imamura Yoshiomi, Murakawa-Hirachi Toru, Nabeta Hiromi, Tateishi Hiroshi, Kato Takahiro A., Monji Akira	4. 巻 14
2. 論文標題 Donepezil suppresses intracellular Ca ²⁺ mobilization through the PI3K pathway in rodent microglia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Neuroinflammation	6. 最初と最後の頁 258 ~ 258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12974-017-1033-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato Takahiro A., Kanba Shigenobu	4. 巻 174
2. 論文標題 Modern-Type Depression as an "Adjustment" Disorder in Japan: The Intersection of Collectivistic Society Encountering an Individualistic Performance-Based System	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 American Journal of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 1051 ~ 1053
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1176/appi.ajp.2017.17010059	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohgidani Masahiro, Kato Takahiro A., Hosoi Masako, Tsuda Makoto, Hayakawa Kohei, Hayaki Chie, Iwaki Rie, Sagata Noriaki, Hashimoto Ryota, Inoue Kazuhide, Sudo Nobuyuki, Kanba Shigenobu	4. 巻 7
2. 論文標題 Fibromyalgia and microglial TNF- : Translational research using human blood induced microglia-like cells	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 11882 ~ 11882
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-11506-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sagata Noriaki, Kato Takahiro A., Kano Shin-ichi, Ohgidani Masahiro, Shimokawa Norihiro, Sato-Kasai Mina, Hayakawa Kohei, Kuwano Nobuki, Wilson Ashley M., Ishizuka Koko, Kato Shiori, Nakahara Takeshi, Nakahara-Kido Makiko, Setoyama Daiki, Sakai Yasunari, Ohga Shouichi, Furue Masataka, Sawa Akira, Kanba Shigenobu	4. 巻 7
2. 論文標題 Dysregulated gene expressions of MEX3D, FOS and BCL2 in human induced-neuronal (iN) cells from NF1 patients: a pilot study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 13905 ~ 13905
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-14440-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Wong Paul W.C., Liu Lucia L., Li Tim M.H., Kato Takahiro A., Teo Alan R.	4. 巻 30
2. 論文標題 Does hikikomori (severe social withdrawal) exist among young people in urban areas of China?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asian Journal of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 175 ~ 176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajp.2017.10.026	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuвано Nobuki, Kato Takahiro A., Setoyama Daiki, Sato-Kasai Mina, Shimokawa Norihiro, Hayakawa Kohei, Ohgidani Masahiro, Sagata Noriaki, Kubo Hiroaki, Kishimoto Junji, Kang Dongchon, Kanba Shigenob	4. 巻 231
2. 論文標題 Tryptophan-kynurenine and lipid related metabolites as blood biomarkers for first-episode drug-naïve patients with major depressive disorder: An exploratory pilot case-control study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 74 ~ 82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2018.01.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayakawa Kohei, Kato Takahiro A., Watabe Motoki, Teo Alan R., Horikawa Hideki, Kuвано Nobuki, Shimokawa Norihiro, Sato-Kasai Mina, Kubo Hiroaki, Ohgidani Masahiro, Sagata Noriaki, Toda Hiroyuki, Tateno Masaru, Shinfuku Naotaka, Kishimoto Junji, Kanba Shigenobu	4. 巻 8
2. 論文標題 Blood biomarkers of Hikikomori, a severe social withdrawal syndrome	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 2884 ~ 2881
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-018-21260-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakagami Y, Kubo H, Katsuki R, Sakai T, Sugihara G, Naito C, Oda H, Hayakawa K, Suzuki Y, Fujisawa D, Hashimoto N, Kobara K, Cho Ti, Kuga H, Takao K, Kawahara Y, Matsumura Y, Murai T, Akashi K, Kanba S, Otsuka K, Kato TA.	4. 巻 225
2. 論文標題 Development of a 2-h suicide prevention program for medical staff including nurses and medical residents: A two-center pilot trial	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 569 ~ 576
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2017.08.074	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato Takahiro A., Kanba Shigenobu, Teo Alan R.	4. 巻 17
2. 論文標題 Hikikomori: experience in Japan and international relevance	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 World Psychiatry	6. 最初と最後の頁 105 ~ 106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/wps.20497	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akamine S, Sagata N, Sakai Y, Kato TA., Nakahara T, Matsushita Y, Togao O, Hiwatashi A, Sanefuji M, Ishizaki Y, Torisu H, Saitsu H, Matsumoto N, Hara T, Sawa A, Kano S, Furue M, Kanba S, Shaw CA., Ohga S	4. 巻 3
2. 論文標題 Early-onset epileptic encephalopathy and severe developmental delay in an association with de novo double mutations in NF1 and MAGEL2	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Epilepsia Open	6. 最初と最後の頁 81 ~ 85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/epi4.12085	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加藤隆弘, 扇谷昌宏, 神庭重信	4. 巻 69
2. 論文標題 精神疾患のミクログリア病態治療仮説 - 橋渡し研究による仮説説明をめざして	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BRAIN and NERVE	6. 最初と最後の頁 1007 ~ 1015
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘, 瀬戸山大樹, 橋本亮太, 功刀浩, 服部功太郎, 康東天, 神庭重信	4. 巻 17
2. 論文標題 血液メタボローム解析による、うつ重症度・自殺念慮のバイオマーカー開発	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 分子精神医学	6. 最初と最後の頁 199 ~ 205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘, 神庭重信	4. 巻 22
2. 論文標題 社会的ひきこもり・現代抑うつ症候群に対するモチベーション障害評価システムの構築	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 最新精神医学	6. 最初と最後の頁 383 ~ 389
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘, 桑野信貴, 神庭重信	4. 巻 32
2. 論文標題 「現代抑うつ症候群 (新型うつ・現代うつ)」は閾値下うつ、あるいは、適応障害か? 精神医学的知見に鑑みて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ストレス科学	6. 最初と最後の頁 63 ~ 73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘	4. 巻 4895
2. 論文標題 精神疾患における炎症性サイトカインを介したミクログリア病態治療仮説	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本医事新報	6. 最初と最後の頁 36 ~ 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘	4. 巻 60
2. 論文標題 末梢血バイオマーカーを用いた精神医学評価システムの構築 - 現代のうつ病診断・評価における困難の打開に向けて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 51 ~ 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘	4. 巻 47
2. 論文標題 グローバル化と社会的ひきこもり ひきこもりは現代社会結合症候群か？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 137～145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤隆弘, 平野直己	4. 巻 27
2. 論文標題 青年期におけるアタッチメントの課題 (指定討論記録)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 思春期青年期精神医学	6. 最初と最後の頁 116～126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohgidani M, Kato TA, Haraguchi Y, Matsushima T, Mizoguchi Y, Murakawa-Hirachi T, Sagata N, Monji A, Kanba S	4. 巻 7
2. 論文標題 Microglial CD206 gene has potential as a state marker of bipolar disorder	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Frontiers in Immunology	6. 最初と最後の頁 676
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fimmu.2016.00676	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計70件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 29件)

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ヒト血液を用いた精神疾患ミクログリア仮説説明のための橋渡し研究
3. 学会等名 NPBPPP2020合同年会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ミクログリアの精神病理を探るためのヒト血液を用いた橋渡し研究
3. 学会等名 第63回日本神経化学学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 フロイトの人間観：晩年の「死の欲動」の創出とその源泉にみる精神分析の目指すもの
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 未来のひきこもり支援におけるヒューマノイドロボットの活用
3. 学会等名 第116回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ひきこもりにおけるうつ病・発達障害の並存を考える
3. 学会等名 第17回日本うつ病学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 樽味の「ディスチミア親和型うつ」概念から出発した若年者の抑うつ症に関する多軸的臨床研究と治療法の概念
3. 学会等名 第17回日本うつ病学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Multidimensional Assessment of Hikikomori
3. 学会等名 Online Symposium of The International Hikikomori Research Consortium (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ひきこもり者の家族支援
3. 学会等名 令和2年度厚生労働省こころの健康づくり対策事業 思春期精神保健研修「ひきこもり対策研修」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ミクログリア分化異常からみた精神神経疾患：患者由来iMG細胞を用いた橋渡し研究
3. 学会等名 第94回日本薬理学会年会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 The Associate Factors of Psychotropic Drug Prescribing. Symposium: RESEARCH ON ASIAN PSYCHOTROPIC DRUG PRESCRIPTION PATTERN: PAST, PRESENT, AND FUTURE
3. 学会等名 20th WPA World Congress of Psychiatry (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Forced social isolation and consequent mental health problems: lessons from hikikomori
3. 学会等名 20th WPA World Congress of Psychiatry (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Hikikomori in Japan and Worldwide. Italian Seminar for Hikikomori Research and Clinical Practice
3. 学会等名 School of Human Health Sciences, University of Florence (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ひきこもりとグループと集団精神療法 「集団の中でひきこもる能力」を獲得すること
3. 学会等名 日本集団精神療法学会第38回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ヒト血液を用いた精神疾患トランスレーショナル研究：直接誘導マイクログリア様細胞の作成とその応用
3. 学会等名 シグナル伝達医学講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Hikikomori-Multidimensional understanding, assessment and therapeutic approach in Japan
3. 学会等名 Strength-based Youth Work Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Does internet assist hikikomori-like behaviors based on the urban boundless society?
3. 学会等名 6th International Conference on Behavioral Addictions (ICBA 2019)（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ひきこもり治療にロボットをどう活かすか？ドラえもんがのび太を救う。シンポジウム8「精神神経科領域におけるロボット治療の現状と今後の課題」
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ミクログリアと心：脳内免疫細胞が心理社会的活動とその破綻に関わる可能性.
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ミクログリアと精神疾患：トランスレーショナル研究
3. 学会等名 第41回日本生物学的精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 香月亮子, 久保浩明, 桑野信貴, 瀬戸山大貴, 康東天, 渡部幹, 坂本真士, Teo Alan R., 神庭重信, 加藤隆弘
2. 発表標題 「現代抑うつ症候群」(いわゆる「現代型うつ」「新型うつ」)の病前性格：22項目の自記式評価尺度(TACS-22)の開発
3. 学会等名 第16回日本うつ病学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘, 扇谷昌宏, 神庭重信
2. 発表標題 精神疾患患者の血液を用いたミクログリア仮説説明のための橋渡し研究. シンポジウム：精神疾患におけるエピゲノムと炎症の役割
3. 学会等名 NEURO2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato TA, Ohgidani M, Kanba S
2. 発表標題 Microglia-focused neuropsychiatric translational research using human bloods; dynamic cellular analysis using induced microglia-like (iMG)cells and various plasma analysis
3. 学会等名 Neuro 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Hikikomori and Modern-Type Depression in Japan: Assessment and Intervention
3. 学会等名 The University of Sydney School of Pharmacy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato TA, Kanba S, Teo AR
2. 発表標題 Defining pathological social withdrawal: A proposal for diagnostic criteria of hikikomori
3. 学会等名 19th WPA World Congress of Psychiatry (WCP) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato TA, Shinfuku N, Teo AR, Kanba S
2. 発表標題 Rural urban migration, social isolation and Impact on mental health
3. 学会等名 19th WPA World Congress of Psychiatry (WCP) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 国際調査で見えてきた「ひきこもり」の課題 - なぜひきこもりは日本に多いのか？
3. 学会等名 熊本学園大学水俣学研究センター 第16期公開講座「『ひきこもり』を知る・考える - 『個人の問題』で片づけてしまわないために」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ひきこもりの多面的理解に基づく具体的な本人と家族への支援
3. 学会等名 香川県中讃保健福祉事務所主催 令和元年度ひきこもり支援者研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Hikikomori in Japan and worldwide:Multidimensional Assessment and Intervention
3. 学会等名 AsCNP-ASEAN Pre-Congress Meeting of Neuropsychopharmacology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 非内因性うつ病(いわゆる「現代うつ」)および不安障害・発達障害合併例における抗うつ薬治療の意義
3. 学会等名 日本臨床精神神経薬理学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato TA, Ohgidani M, Setoyama D, Kang D, Kanba S
2. 発表標題 Human blood-based microglia monitoring system as a novel translational research tool for psychiatric disorders.
3. 学会等名 6th Congress of AsCNP Asian College of Neuropsychopharmacology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ひきこもりの多面的評価システムに基づく具体的な支援(基調講演)
3. 学会等名 第20回日精診チーム医療・地域リハビリテーション研修会九州大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 女性性の理論と臨床をアップデートする(指定討論)
3. 学会等名 日本精神分析学会第65回大会 教育研修セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 発達障害とひきこもり - 大学病院ひきこもり外来での取り組み
3. 学会等名 第7回成人発達障害支援学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 精神医学編 - 社会的ひきこもり
3. 学会等名 同志社大学心理学部・新学術領域研究共催：「中高生のためのモチベーション講座」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ヒト血液を用いた精神疾患ミクログリア仮説説明のための橋渡し研究
3. 学会等名 第35回Wako ワークショップ「ミクログリア研究の最前線 - 基礎から臨床へ -」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ひきこもりという現象からみる未来社会の課題と可能性
3. 学会等名 フューチャー・デザインワークショップ 2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 日本の若者の心の問題と支援の実際
3. 学会等名 国際シンポジウム「現代の若者の心の理解と支援」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 気分障害の血液メタボローム解析による客観的診断法の創出
3. 学会等名 島津奨励賞受賞者講演（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Multidimensional anatomy of hikikomori, a severe social withdrawal
3. 学会等名 KJYPA Symposium, Annual Meeting of Korean Neuropsychiatric Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Hikikomori: Recent Findings and Their Relevance to American Psychiatry
3. 学会等名 APA-JSPN Joint Symposium of Hikikomori, Annual Meeting of American Psychiatric Association 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ひきこもり長期化打開のために家族ができる事
3. 学会等名 平成30年度ひきこもり市民講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 血液メタボローム解析による気分障害の客観的バイオマーカー開発：採血で抑うつや自殺念慮の予測は可能か？. シンポジウム22「次世代の精神疾患の診断・客観的症候評価法の開発」
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 統合失調症におけるミクログリア仮説. シンポジウム55「日本人研究者が発信したオリジナルな統合失調症病態仮説を統合する」
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤隆弘, 扇谷昌宏, 神庭重信
2. 発表標題 ヒト末梢血単球由来の直接誘導ミクログリア様 (iMG) 細胞を用いた精神疾患トランスレーショナル研究. シンポジウム82「精神疾患研究におけるブレイクスルー～グリア細胞の重要性～」
3. 学会等名 第114回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 HIKIKOMORI (Shut-in): cross-cultural discussion
3. 学会等名 第2回国際思春期青年期精神医学・心理学会アジア地区大会 (第31回日本思春期青年期精神医学会年次大会) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Directly-induced neuronal/microglial cells for psychiatric translational research
3. 学会等名 Pan-Asia Symposium on the Genetics of Brain Disorders (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ミクログリアは心の機能とその病(精神疾患)に如何に働いているのか?
3. 学会等名 新潟大学脳研究所 新潟脳神経研究会主催第48回新潟神経学夏期セミナー:脳と心の基礎科学から臨床まで 最前線の研究者、臨床家に触れて体感しよう
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Blood inflammatory biomarkers of depression and hikikomori focusing on microglia
3. 学会等名 Special Lecture, 3rd Global Conference of Biological Psychiatry (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 津田誠, 加藤隆弘
2. 発表標題 シンポジウム企画「痛覚伝達システムの新しい生体ディフェンスと恒常性維持機構において」
3. 学会等名 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学会大会合同年会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 森田療法における絶対臥褥と週4カウチの精神分析：「あるがまま」の境地にいたる二つの道
3. 学会等名 シンポジウム, 第36回日本森田療法学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato TA, Kuwano N, Setoyama D, Kang D, Kanba S
2. 発表標題 Objective blood biomarkers of depression focusing on tryptophan-kynurenine pathway
3. 学会等名 Symposium, 第15回国際トリプトファン学術集会(ISTRY2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 The multidimensional anatomy of "modern-type depression" in Japan
3. 学会等名 KJYPA Symposium, Autumn Congress of Korean Neuropsychiatric Association (KNPA) 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤隆弘, 久保 浩明, 浦田裕美
2. 発表標題 ひきこもり長期化打開のために家族ができることを考えるワークショップ
3. 学会等名 平成30年度ひきこもり市民講演会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Teo AR, Kato TA
2. 発表標題 Winston W Shen WW: How to get your research in psychiatry published: Skills for the academic psychiatrist.
3. 学会等名 Workshop, 18th International Congress of Pacific Rim College of Psychiatrists and 5th Myanmar Mental Health Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Case report of a hikikomori “adulthood” who were born between Japanese father and Korean mother
3. 学会等名 6th Symposium of the East Asian Academy of Cultural Psychiatry “Mental Health Issues on Refugees and Foreigners” (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Approaching to the concept of IGD using the schema of Hikikomori
3. 学会等名 2018 International conference on Internet gaming disorder ‘Janus Faces of Internet Gaming Disorder’ (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato TA, Ohgidani M, Kanba S
2. 発表標題 Plenary lecture, Microglia-focused neuropsychiatric translational research using human bloods; dynamic cellular analysis using induced microglia-like (iMG) cells from human monocytes and various plasma analysis
3. 学会等名 Invited Speech, Cold Spring Harbor Asia (CSHA) "Novel Insights into Glia Function & Dysfunction" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kato TA, Kuwano N, Mitsuhashi M, Kanba S
2. 発表標題 Can Neuron-Related Blood Proteins, indicating the Levels of Neuron-Derived Exosomes (NDE), become an Objective Evaluation Tool for Depression?
3. 学会等名 Poster session, 57th Annual Meeting of the American College of Neuropsychopharmacology (ACNP) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 一般外来でのうつ病患者の早期発見・早期介入のコツを学ぶ：メンタルヘルス・ファーストエイドの活用
3. 学会等名 公益社団法人福岡県医師会主催・一般科医・産業医のための心の健康対応力向上研修
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤隆弘, 久保 浩明, 浦田裕美
2. 発表標題 かかりつけ医及び産業医向けメンタルヘルス・ファーストエイド研修～日常臨床場面でのうつ・アルコール依存症患者への初期対応を学ぶ～
3. 学会等名 平成30年度かかりつけ医・産業医こころの健康対応力向上研修
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ひきこもりに対する精神分析的アプローチー精神分析的臨床とミクログリア研究から考えるー
3. 学会等名 第71回九州精神神経学会 ポストイベント(日本精神分析学会 医療問題委員会企画)シンポジウム「精神分析的臨床のいま」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ひきこもりの多面的理解と治療：心理社会モデルと生物学的モデルの融合
3. 学会等名 不登校・ひきこもりと発達障害 - 治癒的アプローチの探索と集団療法のワークショップ -
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 「死の欲動」を巡る精神分析と脳科学との対話；自殺からひきこもりまで
3. 学会等名 ランチョンセミナー，第17回日本精神分析的な精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤隆弘
2. 発表標題 ひきこもり者の精神分析
3. 学会等名 運営委員会推薦演題，第17回日本精神分析的な精神医学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato TA, Sanba S
2. 発表標題 Do human plasma metabolites predict severity of depression and suicidal ideation?. Symposium “Biomarker research for pathophysiology and treatment effect of affective disorders”,
3. 学会等名 th Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology (AsCNP) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤隆弘, 神庭重信
2. 発表標題 うつ病を考える biology、psychology、psychopathologyから 脳内免疫細胞ミクログリアに焦点づけた気分障害研究:「死の欲動」の起源はミクログリアか?
3. 学会等名 第14回日本うつ病学会総会・第17回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤隆弘, 扇谷昌宏, 瀬戸山大樹, 康 東天, 神庭重信
2. 発表標題 ミクログリア仮説に鑑みた気分障害の血液バイオマーカー研究
3. 学会等名 第39回 日本生物学的精神医学会・第47回 日本神経精神薬理学会 シンポジウム「情動・脳高次機能解明の手続きとしてのメタボローム解析」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 加藤隆弘, 扇谷昌宏, 瀬戸山大樹, 康 東天, 神庭重信
2. 発表標題 ミクログリア仮説に鑑みた気分障害の血液バイオマーカー研究
3. 学会等名 第39回 日本生物学的精神医学会・第47回 日本神経精神薬理学会 シンポジウム「うつ病における炎症・酸化ストレスの役割と創薬への発展性」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kato TA
2. 発表標題 Hikikomori/Hidden Youth Definition
3. 学会等名 Hikikomori-Hidden Youth Syndrome Symposium (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kato TA, Ohgidani M, Hosoi M, Kanba S
2. 発表標題 Translational Research Using Human Blood Directly Induced Microglia-Like (iMG) cells; over Gene Expression and Production of TNF- after ATP Stimulation in iMG Cells from Patients with Fibromyalgia
3. 学会等名 ACNP 56th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 Kato TA:	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Elsevier, San Diego	5. 総ページ数 327
3. 書名 A developmental model of hikikomori: Possible ways to prevent and treat pathological social withdrawal. Chapter 6: pp135-157, Starting at the beginning: Laying the foundation for lifelong mental health	

1. 著者名 加藤 隆弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 木立の文庫	5. 総ページ数 204
3. 書名 みんなのひきこもり	

1. 著者名 加藤隆弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩崎学術出版社	5. 総ページ数 181
3. 書名 書評「青年のひきこもり・その後 包括的アセスメントと支援の方法論」(近藤 直司 著	

1. 著者名 加藤隆弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩崎学術出版社	5. 総ページ数 544
3. 書名 ギャバード著 訳『精神力動的精神医学 第5版』第12章	

1. 著者名 加藤隆弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩崎学術出版社	5. 総ページ数 544
3. 書名 ギャバード著 訳『精神力動的精神医学 第5版』第13章	

1. 著者名 加藤隆弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩崎学術出版社	5. 総ページ数 76
3. 書名 ひきこもり 文化横断的討論 引きこもりへの多面的アプローチ	

1. 著者名 Sartorius N*, Shinfuku N, Kua HE, Kato TA, Teo AR, Tateno M, Choi TY, Balhara YPS, Kanba S	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer, Cham	5. 総ページ数 740
3. 書名 Urban Mental Health in the Twenty-First Century. Advances in Psychiatry	

1. 著者名 Sato-Kasai M, Kato TA*, Ohgidani M, Horikawa H, Mizoguchi Y, Monji A, Kanba S	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer, Singapore	5. 総ページ数 322
3. 書名 Modulating microglial activation as a possible therapeutic target for depression. pp 209-219, Understanding Depressio - Volume 1. biomedical and Neurobiological Background (Edited by Kim YK)	

1. 著者名 Kato TA*, Shinfuku N, Sartorius N, Kanba S	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Springer Singapore	5. 総ページ数 489
3. 書名 Loneliness and single person households: Issues of kodoku-shi and hikikomori in Japan. pp205-219, Mental Health and Illness Worldwide: Mental Health and Illness in the City	

〔出願〕 計1件

産業財産権の名称 うつ病診断用バイオマーカー及びその使用	発明者 加藤 隆弘, 瀬戸山 大樹、康 東天、神 庭 重信	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、PCT/JP2016/082290	出願年 2016年	国内・外国の別 外国

〔取得〕 計0件

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	牧之段 学 (makinodan manabu) (00510182)	奈良県立医科大学・医学部・講師 (24601)	
研究分担者	境 泉洋 (sakai motohiro) (90399220)	宮崎大学・教育学部・准教授 (17601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Online Symposium of The International Hikikomori Research Consortium	開催年 2021年～2021年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------